

「観光」は、雇用の受け皿になっているのか？

1. GDP は国内総生産であり、付加価値の総額。付加価値の大部分は、人件費であるため、GDP と総給与額は連動すると考えられる。
2. そこで 1980 年から 2015 年までの名目 GDP と総給与額の関係を確認したところ、両者に強い相関があることが確認出来た(図 1)。
3. ただ、総給与額がピークとなった 1998 年以降は、その関係性がぼやけるようになっていく。そこで、バブル期の 1990 年以降を拡大してみると、名目 GDP が減少に転じた 1997 年以降、GDP の減少にあわせて総給与額も減少していくことになる。ただ、2000 年から 2003 年頃にかけて、名目 GDP の減少以上に総給与額は急激に減少する(図 2)。
4. これは、同時期に「付加価値」の人件費への分配率が変化したことを意味している。なお、1999 年には、いわゆる派遣業法が改正され、建設や医療などを除く業種への派遣が可能となっている。
5. 2003 年以降は、2000 年頃までとは比率は異なるが、名目 GDP と総給与額は、再び比例するようになっていく。
6. 次に、総給与額と総給与所得者数との関係を見てみると、1998 年までは名目 GDP と比例関係にあったが、それ以降、名目 GDP の推移との相関性が薄れている(図 3)。
7. そこで 1980 年から 2015 年までの総給与額と総給与所得者数との関係を見てみると、1998 年から 2002 年頃までは、(前述の構造変化で)総給与額が減少する中、所得者数は横這いで推移している。その後も、総給与額は減少するが、給与所得者数は増大に転じる。2008 年のリーマンショック以降、2011 年頃までは、1998 年から 2002 年頃と同様に、総給与額が減少する中で、所得者数は横這いで推移、その後、アベノミクスの中で総給与額が増大に転じると、連動して総給与所得者数も増大するようになっていく。
8. このように、名目 GDP の増大傾向が途切れた 1998 年以降も、総給与所得者数は 2 期に別けて増大した。第 1 期は、2002 年から 2008 年の総給与額減少の中での増加。第 2 期は、2011 年以降の、総給与額増大にあわせた増大である。
9. では、この 2 期において、観光業(宿泊業・飲食サービス業)は、雇用の受け皿となったのかについて見てみると、第 2 期×女性において増大傾向が見られた。なお、期・男女にかかわらず雇用を伸ばしているのは医療・福祉である(表 1)。

図1：1980年から2015年までの名目GDP(暦年)と総給与額の関係

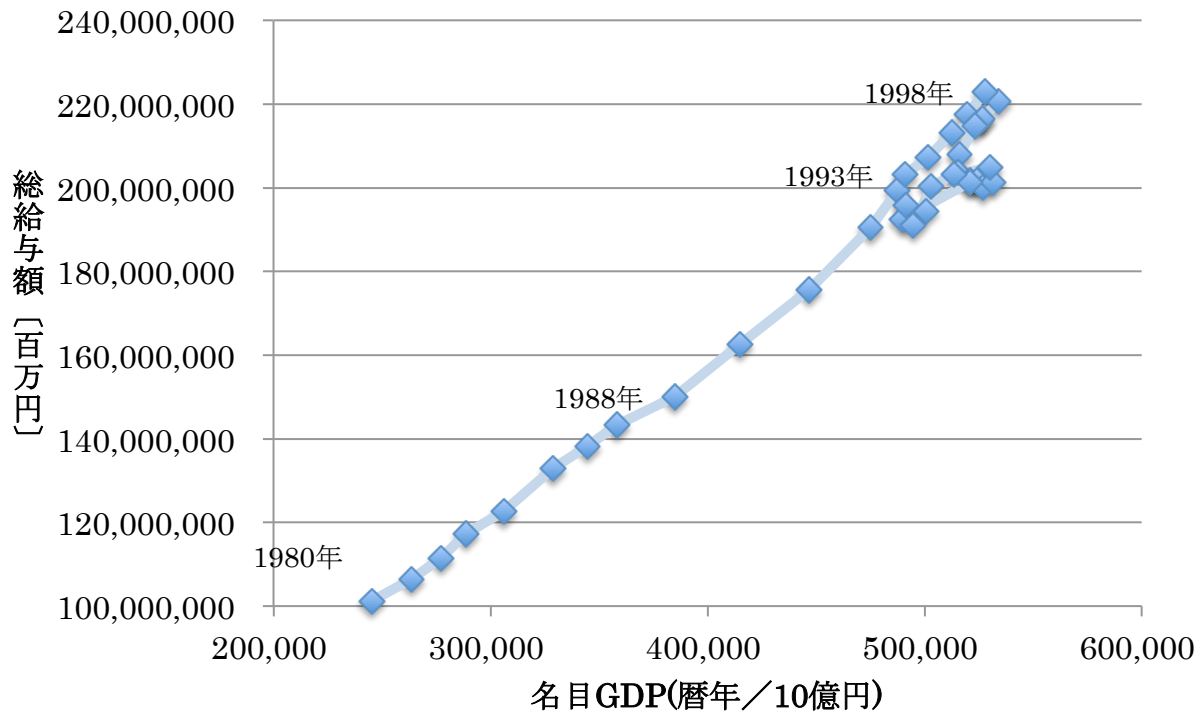


図2：1990年から2015年までの名目GDP(暦年)と総給与額の関係

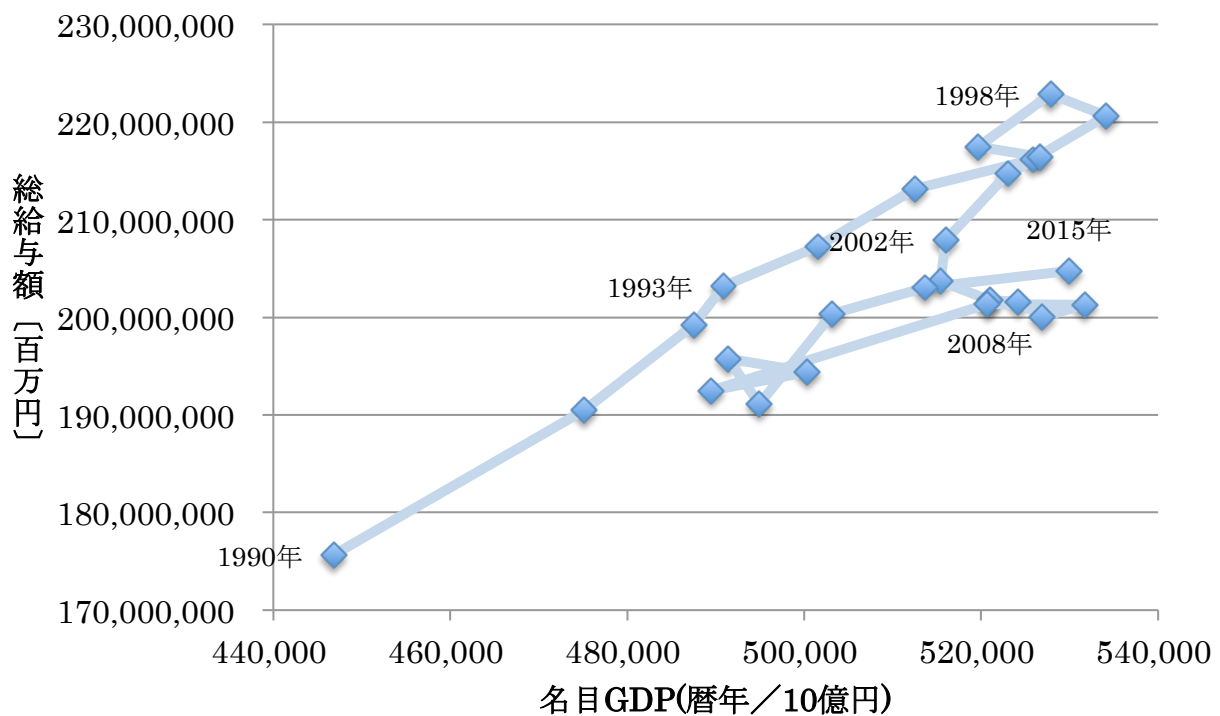


図3：1980年から2015年までの総給与額と総給与所得者数の関係

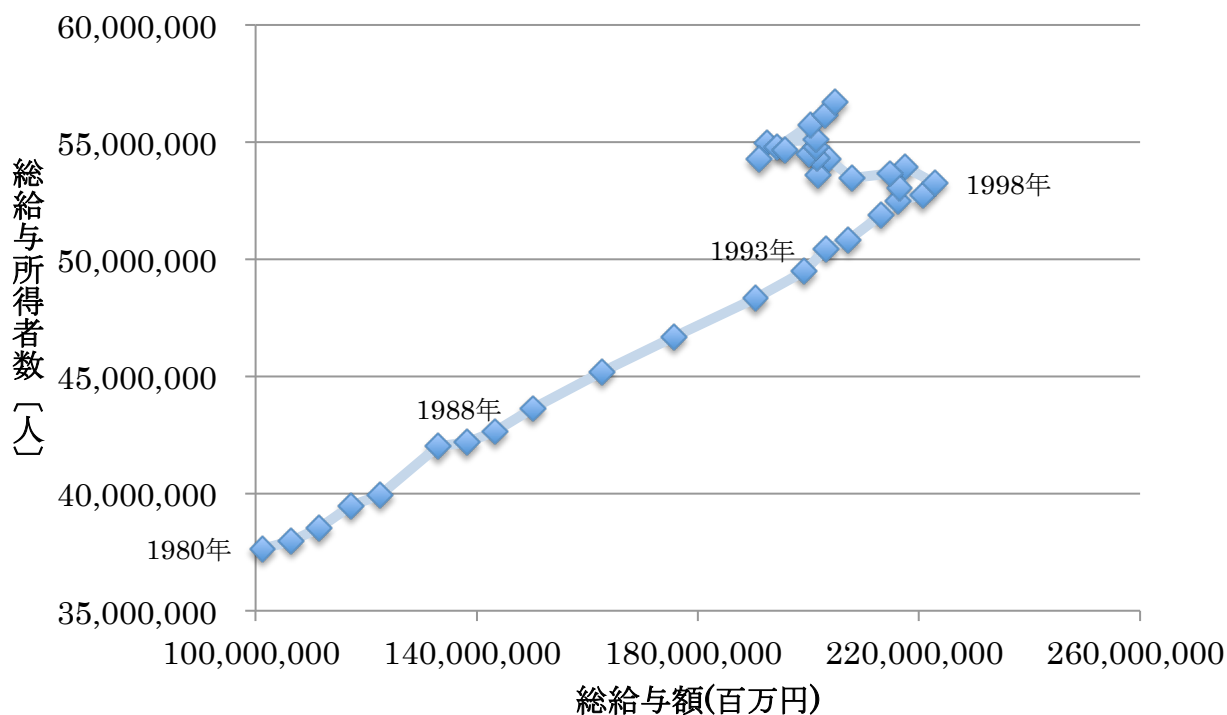


図4：1990年から2015年までの総給与額と総給与所得者数の関係

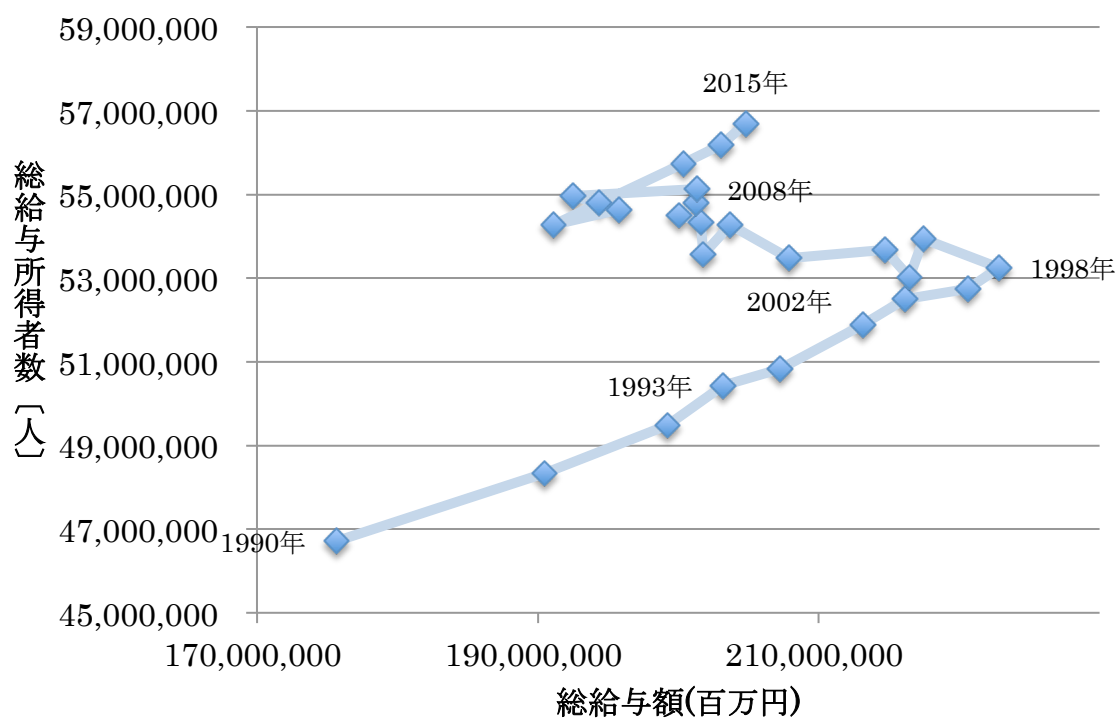


表 1 業種別 雇用者数およびシェアの推移

性別	項目	建設業	製造業	運輸業・郵便業	卸売業・小売業	宿泊業・飲食サービス業	医療・福祉	サービス業(他に分類されないもの)
全体	2002年雇用者数シェア	9.5%	20.8%	5.8%	17.7%	5.6%	8.3%	6.2%
	2011年雇用者数シェア	7.4%	18.1%	6.1%	17.2%	5.7%	11.7%	7.5%
	2002→2008増減	87.1%	97.6%	106.2%	100.0%	99.7%	128.9%	134.2%
	2011→2015増減	99.8%	99.0%	96.1%	101.7%	103.5%	116.4%	88.2%
男性	2002年雇用者数シェア	13.5%	23.7%	8.1%	15.3%	3.7%	2.9%	6.2%
	2011年雇用者数シェア	11.0%	22.3%	8.7%	14.8%	3.7%	4.6%	7.6%
	2002→2008増減	86.9%	101.1%	103.9%	97.1%	96.6%	135.2%	128.8%
	2011→2015増減	98.9%	98.6%	94.9%	100.4%	101.7%	118.5%	91.7%
女性	2002年雇用者数シェア	3.6%	16.6%	2.3%	21.3%	8.6%	16.1%	6.2%
	2011年雇用者数シェア	2.6%	12.4%	2.6%	20.5%	8.4%	21.3%	7.4%
	2002→2008増減	87.0%	90.3%	120.0%	103.0%	101.1%	127.6%	141.4%
	2011→2015増減	106.5%	99.7%	100.0%	103.3%	104.5%	116.0%	83.2%